

水泳・水球

No. 4

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M20 決勝戦

【2025/8/20】

前橋商業 18

4	—	2
4	—	0
7	—	5
3	—	0

7 埼玉栄

PSO

審判1 深谷周平

審判2 吉田涼吾

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	富岡 颯大	29	7	42%
GK13				

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	山口 大和	33	14	33%
GK13	黒田 陽太	7	4	33%

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	富岡 颯大	1		
2	関口 快巧	2		
3	深澤 陸之助	4	1	3
4	齋藤 優輝	11	5	
5	椎名 啓五	5	1	1
6	前田 敦也	9	6	
7	星 颯来	3	3	1
8	福島 圭悟			1
9	竹腰 壮大			
10	倉林 幸広	5	2	
11	粕川 泰雅			
12				
GK13				

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	山口 大和			
2	小久保 旭	1	1	
3	吉川 道太郎	3		
4	稲垣 拓哉	13	4	1
5	菊池 俊来	2		
6	茂呂 明			
7	曾根 翔英			
8	池田 大空	6		
9	遠藤 樹吹			
10	木嶋 美駆			
11	狩野 一勘	4	2	2
12	村田 了皇			
GK13	黒田 陽太			

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



水泳・水球

No. 3

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月20日（水）
会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

20

帽子的色 白

帽子的色 青

前橋商業

18

4	-	2
4	-	0
7	-	5
3	-	0
PSO		

7

埼玉栄

審判1： 深谷 周平

審判2： 吉田 涼吾

戦評

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）は、8月20日、山口きらら博記念公園水泳プールで最終日を迎えた。数多くの激戦を経て決勝に駒を進めたのは、前橋商業高校（白帽）と埼玉栄高校（青帽）。ともに準決勝で強豪を退け、ついに全国制覇をかけた大一番を迎えた。観客席からは両校への大きな声援が響き渡り、会場は熱気に包まれた。

第1ピリオド、試合の主導権を握ったのは前橋商業だった。⑥前田がゴール前で冷静に決めて先制すると、⑦星は相手GKの頭上を巧みに抜くシュートで追加点。さらに③深澤、④齋藤と続き、一気に畳みかけた。守備でもGK①富岡を中心に粘り強く守り、相手の勢いを封じた。一方の埼玉栄も④稲垣、②小久保が得点を挙げて追従するが、スコアは4-2と前橋商業がリードして第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドは前橋商業がさらに勢いを増す。⑦星が連続でミドルシュートを叩き込み、続いて⑥前田のカウンター、④齋藤の技ありループシュートも決まり、このピリオドを無失点で終える完璧な内容を披露。観客席は大きな拍手に包まれ、前半を終えて8-2と点差を広げた。埼玉栄も果敢に攻め込むが、得点に結びつかず、前橋商業の堅守速攻に苦しめられる時間帯が続いた。

それでも第3ピリオドに入ると、埼玉栄が意地を見せる。⑪狩野の力強い得点で反撃の狼煙を上げると、キャプテン④稲垣が連続ゴールを奪い、チームを鼓舞。パスワークからワンタッチで決めるなど、埼玉栄らしいスピード感ある攻撃が随所に光った。しかし、前橋商業も攻撃の手を緩めない。⑥前田が抜群の突破力を発揮して次々にゴールを重ね、④齋藤や⑩倉林も得点に絡むなど多彩な攻撃を展開。このピリオドは7-5と互いに得点を重ね合い、試合は一層白熱した。

最終第4ピリオド、勝負を決定づけたのはやはり前橋商業の集中力だった。⑥前田、⑩倉林が連続でカウンターの成功させ、さらに試合終盤には⑤椎名も加点。守備ではGK①富岡が安定したセーブを連発し、相手の必死の追撃を跳ね返した。埼玉栄も④稲垣や⑧池田を中心に最後まで得点を狙い続けたが、シュートはわずかにポストを外れるか、GK①富岡の堅守に阻まれた。結局、このピリオドも前橋商業が3-0で制し、勝利を大きく引き寄せた。

試合終了の笛が鳴り響いた瞬間、スコアは18-7。前橋商業高校が堂々たる戦いぶりで優勝を飾った。攻守にわたりバランスの取れたチーム力、そしてキャプテン④齋藤、エース⑥前田を中心とした爆発力は、まさに王者にふさわしいものであった。一方で、敗れた埼玉栄高校の健闘も大いに称えられるべきである。苦しい展開の中でも④稲垣や⑪狩野が最後までゴールを狙い続け、諦めない姿勢を見せたことは、観る者の胸を打った。強豪相手に果敢に挑んだ姿勢は、多くの後輩たちの手本となるだろう。

この決勝戦は、ただ勝敗を決するだけの舞台ではなかった。プールに響いた水音と歓声の中で繰り上げられた攻防は、高校水球が持つすべての魅力を鮮やかに映し出していた。豪快に放たれたシュート、体を張って守り抜いたディフェンス、そして仲間を信じ、最後の瞬間まで泳ぎ続ける姿。その一つひとつが青春そのものであり、輝く時間の積み重ねであった。最後まであきらめずに挑み続けた埼玉栄の姿と、優勝を手にした前橋商業の栄光は多くの人の心を打ち、未来へとつながる大切な遺産となった。

記録者

伊藤・加藤・菅原